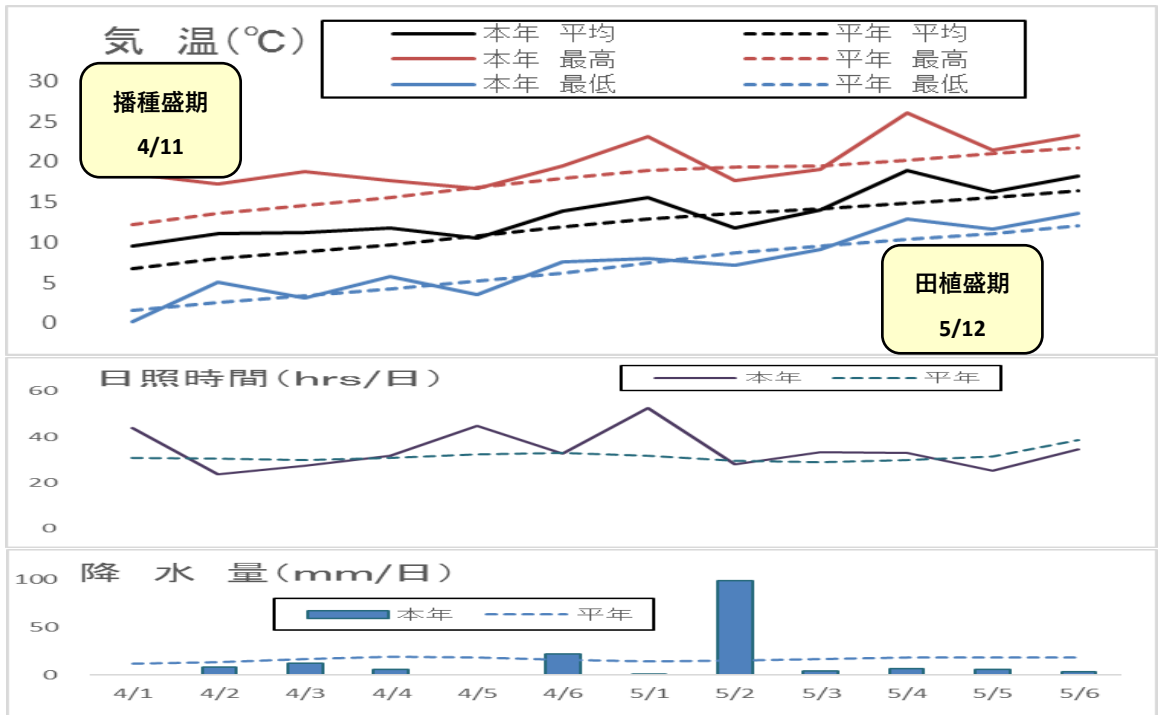


～田植盛期頃の低温により、分けつが抑制され基数は少なめ～

1 令和5年の気象 (古川アメダス)



◆6月1日発表 東北地方の1か月予報(6月3日～7月2日までの天候見通し)【気象庁ホームページより】

- ・期間の前半は、天気は数日の周期で変わる。期間の後半は、平年と同様に曇りや雨の日が多い。東北太平洋側では、期間の前半は気温がかなり高くなる可能性がある。
- ・向こう1か月の気温は、高い確率50%、平年並みの確率30%、低い確率20%。
- ・降水量は、多い若しくは平年並みの確率30%、少ない確率40%。
- ・日照時間は、多い確率40%、平年並み若しくは少ない確率30%。

気温、降水量、日照時間の各階級の確率 (%)			
気温	東北日本海側	向こう1か月 06/03～07/02	20 (低) 30 (平) 50 (高)
		1週目 06/03～06/09	20 (低) 40 (平) 40 (高)
		2週目 06/10～06/16	20 (低) 30 (平) 50 (高)
		3～4週目 06/17～06/30	30 (低) 30 (平) 40 (高)
	東北太平洋側	向こう1か月 06/03～07/02	20 (低) 30 (平) 50 (高)
		1週目 06/03～06/09	20 (低) 30 (平) 50 (高)
		2週目 06/10～06/16	10 (低) 30 (平) 60 (高)
		3～4週目 06/17～06/30	30 (低) 30 (平) 40 (高)
降水量	東北地方	向こう1か月 06/03～07/02	40 (低) 30 (平) 30 (高)
日照時間	東北地方	向こう1か月 06/03～07/02	30 (低) 30 (平) 40 (高)

■ 低い(少ない) ■ 平年並 ■ 高い(多い)

2 播種・田植状況

(1) 播種期（4月28日現在）

- ・播種始期は平年並みの4月2日、盛期は平年並みの4月11日であった。終期は平年並みの4月21日であった。
- ・県では、近年の茎数過剰傾向や登熟期の高温障害回避を踏まえ、田植えを遅くする「晩期栽培」を推進しているが、概ね平年並みの播種時期となった。

播種期(県全体)

区分	播種始期 (5%)	播種盛期 (50%)	播種終期 (95%)
本年	4月2日	4月11日	4月21日
前年	4月2日	4月11日	4月22日
平年	4月2日	4月11日	4月21日
平年差	並	並	並

(2) 田植進捗状況（5月29日現在）

- ・田植始期は平年並みの5月4日、盛期は1日遅い5月12日であった。終期は1日遅い5月23日であった。

田植状況(県全体)

区分	田植始期 (5%)	田植盛期 (50%)	田植終期 (95%)
本年	5月4日	5月12日	5月23日
前年	5月3日	5月10日	5月22日
平年	5月4日	5月11日	5月22日
平年差	並	1日遅い	1日遅い

3 生育状況（6月1日）【宮城県 水稻生育調査ほ】

- ・草丈は、22.7cmで平年比98%である。
- ・茎数は、㎡当たり104本で平年比94%である。5月第2～第3半旬の低温の影響で、分けつの増加が抑制され、茎数が平年よりやや少ない傾向にある。
- ・葉数は、5.2枚で概ね平年並みである。

6月1日 生育調査ほ 県平均値(ひとめ+ササ n=18)

県平均値	草 丈		茎 数		葉 数	
	本年 (cm)	平年比 (%)	本年 (本/㎡)	平年比 (%)	本年 (枚)	平年比 (枚)
	22.7	98	104	94	5.2	▲ 0.1

※平年差比は過去5か年平均値(平成30～令和4年)より算出

4 今後の管理

(1) 適正な生育量確保（水管理）

- ・活着後は水深3 cm程度の浅水管理を基本とし、低温の日は5～6 cmの深水で保温して、茎数の増加を促進する。
- ・生わらや未熟堆肥を施用した水田では、一時落水等でガスの発生や土壌還元による生育抑制を防ぐ必要がある。

(2) 雑草防除

- ・中期除草剤は、使用時期の幅が狭く、水稻やノビエの葉齢に制限がある剤が多いので、ラベルをよく読んで処理する。
- ・薬剤の選定、使用にあたっては、最新の農薬登録情報を確認する。
- ・除草剤を使用する際は、止水期間を1週間程度とすることが効果のポイントである。
- ・ノビエやイヌホタルイなどが残草すると、斑点米の原因となるアカスジカスミカメが水田内に侵入し産卵するので、防除を徹底する。
- ・直播栽培では、苗立ちが確保されたら時期を逃さず湛水して除草剤を散布する。

(3) 病害虫の発生と防除

- ・本田での「いもち病」の発生源となるため、補植終了後は速やかに苗を除去し、裏返す等、適正に処分する。6月1日現在、かなりの残苗が確認されている。
- ・飼料用米や直播栽培など、箱施用剤を使用していない場合は、各種水面施用剤を適期に散布する。
- ・イネミズゾウムシの「本田侵入始期は平年よりやや早い5月第4半旬」で、「発生量は平年並」と予想されている。また、イネドロオイムシの「発生時期は平年よりやや早い6月第2半旬」で、「発生量は平年並」と予想されている【宮城県病害虫防除所発行 発生予報第3号より】。



【イネミズゾウムシ】



【イネドロオイムシ】



【苗いもち】

- ・イネドロオイムシについては、チアメトキサム剤（商品名：デジタルコラトップアクタラ箱粒剤、デジタルメガフレア箱粒剤等）に対する薬剤感受性低下が確認されている。本成分を含む箱施用剤を使用して、発生が多く確認されたほ場では、別系統の箱施用剤に切り替える。